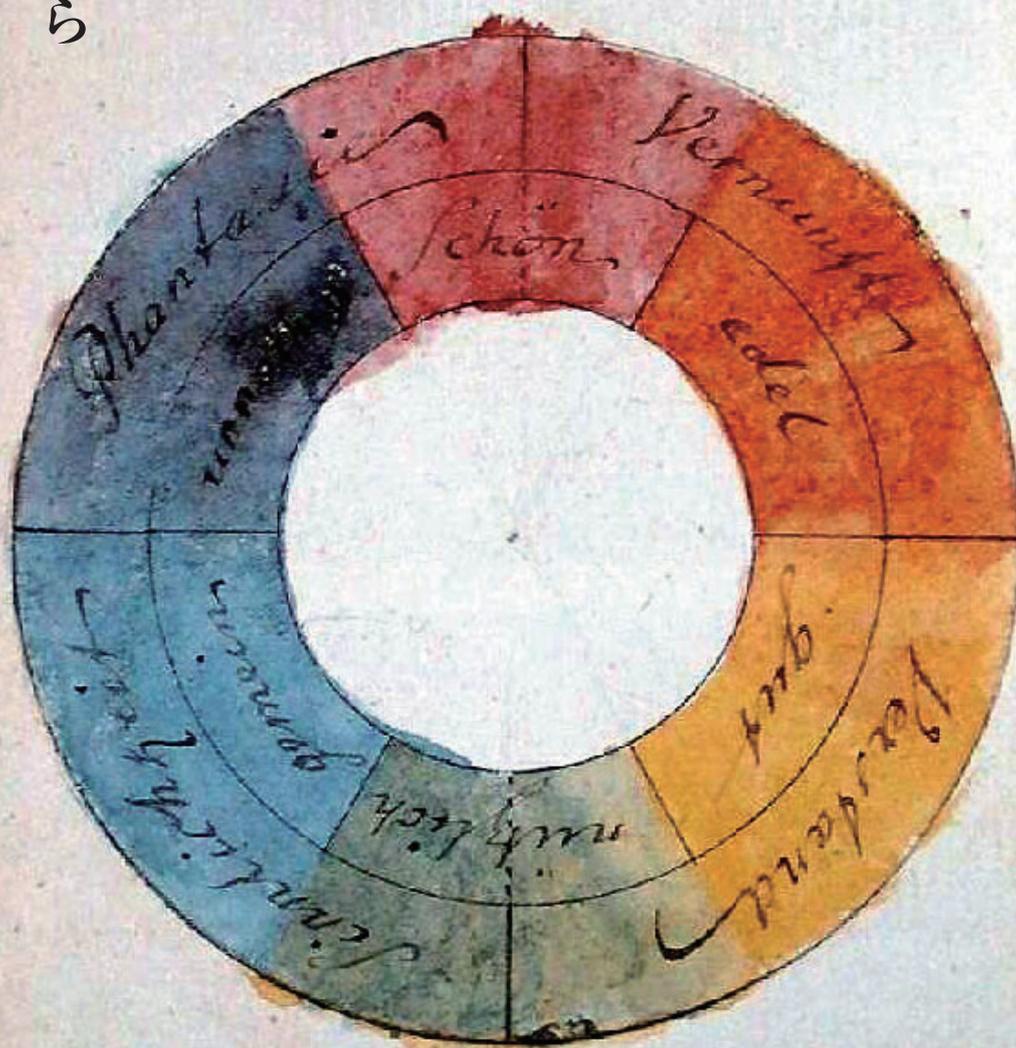


シンポジウム

# 「悲と愛のアート

# ケアを支えるもの」



悲しみのなかから

深い心の安らぎをもたらす力が

アートにはあります。

日時 2018年11月11日(日) (開場 13:30) 14時～18時

場所 上智大学6号館101室(ホール)

参加費 1500円(グリーンケア研究所講座受講生・学生・東京自由大学会員:1,000円)

●基調講演①「菩薩像と悲のこころ」金子啓明(日本大学芸術学部客員教授)

●基調講演②「悲しみと霊性と詩」若松英輔(批評家・随筆家)

●パネルディスカッション

司会: 島藺進(上智大学大学院実践宗教学研究科研究科長・教授、同グリーンケア研究所所長)

発題: 「音楽とスピリチュアルケア」里村生英(ミュージック・サナトロジー実践修行者)

「悲と愛のアート」鎌田東二(上智大学グリーンケア研究所特任教授、京都大学名誉教授)

討議: 里村生英、若松英輔、鎌田東二

主催: 上智大学グリーンケア研究所 共催: 東京自由大学、新日本研究所

お申し込み・お問い合わせ

WEBサイト、電話からお申し込みください。料金は当日会場受付でお支払いください。

<http://www.shinnihonkenkyusho.com> TEL: 0467-31-8663

グリーフケアやスピリチュアルケアを求める声が高まり、ケアのための学びの意欲をもつ人々も増えています。そこで次第に強く認識されるようになってきているのは、ケアにおける音楽、造形芸術、物語、詩歌などの芸術、アートの重要性です。悲しみから目をそらすのではなく、悲しみのなかから深い心の安らぎをもたらす力がアートにはあります。アートがもたらす慰めや鼓舞が、「喪の仕事」を意義深いものにし、生きる勇気をもたらしてくれるのです。そのようなアートの働きについて、芸術の歴史を振り返りつつ考えます。造形芸術、音楽、文芸に造詣の深い方々をお招きし、現代におけるケアのあり方に引きつけて考えてまいります。



- 13:20 開場  
 14:00 開会  
 基調講演① 金子啓明「菩薩像と悲のこころ」  
 基調講演② 若松英輔「悲しみと霊性と詩」  
 16:00 休憩  
 16:15 パネルディスカッション（司会：島菌進）  
 里村生英「音楽とスピリチュアルケア」  
 鎌田東二「悲と愛のアート」  
 討議 里村生英、若松英輔、鎌田東二  
 18:00 閉会

## 金子啓明

日本大学芸術学部客員教授、東京国立博物館名誉館員。元興福寺国宝館館長。1947年東京都生まれ。慶應義塾大学修士課程修了。美術史専攻。著書：『仏像のかたちと心 ー白鳳から天平へー』（岩波書店2012年）、『運慶のまなざし ー宗教彫刻の霊性とかたちー』（岩波書店2017年）など。

## 若松英輔

批評家・随筆家、東京工業大学リベラルアーツ教育研究院教授、1968年生まれ。『叡知の詩学 小林秀雄と井筒俊彦』にて西脇順三郎学術賞、『詩集 見えない涙』にて詩歌文学館賞を受賞。著書に『常世の花 石牟礼道子』（亜紀書房）『イエス伝』（中央公論新社）『悲しみの秘義』（ナナロク社）など。

## 里村生英

大学専任教員として音楽教育学分野の授業と研究に従事。現在の研究テーマは音（歌声）・音楽経験を通じたスピリチュアルケア並びに観想教育論。京都大学教育学研究科博士後期課程修了。博士（教育学）。翻訳書：『エンドオブライフ期の音楽ー痛みを和らげ、旅立ちの準備に寄り添うー』（ふくろう出版2014年）

## 鎌田東二

上智大学グリーフケア研究所特任教授。京都大学名誉教授。1951年徳島県生まれ。宗教哲学・民俗学専攻。石笛・横笛・法螺貝奏者。著書『神界のフィールドワーク』『翁童論』『宗教と霊性』『現代神道論』『言霊の思想』『天河大辨財天社の宇宙』『常世の時軸』など。

## 島菌進

上智大学大学院実践宗教学研究科研究科長・教授、同グリーフケア研究所所長。東京大学名誉教授。1948年東京生まれ。1972年東京大学文学部卒。著書：『日本人の死生観を読む』（朝日新聞出版、2012年）、『宗教を物語でほどく』（NHK出版 2016年）など。

## アクセス

JR中央線、東京メトロ丸ノ内線・南北線/四ッ谷駅 麴町口・赤坂口から徒歩5分

